

石畑祇園囃子

瑞穂町無形民俗文化財

所在地：瑞穂町石畑



石畑祇園囃子は、石畑地区に鎮座する須賀神社の例大祭に奉納される音曲です。石畑祇園囃子の始まりは、言い伝えや資料等が無く分かっていませんが、昭和8年（1933）に建造された「石畑の神輿」の完成を祝う同年の記念写真に、揃いの衣装を着て篠笛や太鼓を持った人々の様子が写されています。このことから、少なくとも昭和

8年以前から祇園囃子が行われていたことが推測され、現在まで途切れることなく継承されています。昭和48年（1973）、石畑祇園囃子の継承への取り組みとして、当時、夏祭りに接する機会が少なかった女子小学生に郷土への愛着を芽吹かせるため、坂田勝長氏が中心となり子ども会（育成会）と連携し、祇園囃子の指導を始めました。現在もその取り組みは継続されています。

祇園囃子の鳴り物は、七孔の篠笛と大太鼓で、その曲は京都の祇園囃子にゆかりがあるのではないかと考えられています。祭礼では大太鼓に合わせて一番から七番までの曲を繰り返し吹きながら神輿を先導し、祭礼を盛りあげています。